

平成23年度 おけさ柿病虫害防除暦（ボルドー体系）

エコファーマー対応防除暦となっているので、1回目防除（生物農薬）は必ず実施すること。

【表示されている農薬の使用基準は2010年9月末現在の登録内容です】

J A 佐渡

回数	散布時期	主な対象病虫害	10a散布量 %手散布() はSS散布	薬剤名又は展着剤	散布濃度	収穫前使用 使用時期	使用 回数	水100Lあ たり薬量	備考欄（使用上の注意など）
臨時	3月上中旬 (休眠期)	コナカイラムシ類	250 (200)	ハーベストオイル	50倍	発芽前	—	2 リットル	・発生園では必ず散布する。粗皮けずり後に散布すると効果が高い。 ・落葉は3月中旬までに集め、埋める。 ・薬剤散布は無風の暖かい日を選び、主枝、亜主枝の分岐部分にたっぷりかける。
1	5月上中旬 (展葉期)	ハマキムシ類 ケムシ類	350 (250)	ファイブスター顆粒水和剤 展着剤	1,000倍 下記各展着剤使用基準による	前日	—	100 g	・ファイブスターは生物農薬であるため、殺虫効果が現れるまで期間を要するが、食害には効果は早く現れる。発生初期に散布する。 ・強風等での枝葉がいたんだ場合は、オンリーワンフロアブル2,000倍液を散布する。（単用散布）
臨時	5月中下旬	アザミウマ類 フジコナカイラムシ ハモンヨトウ	350 (250)	オリオン水和剤40	1,000倍	21日	3	100 g	・害虫多発の場合、発生状況を確認し散布する。 ・フジコナカイラムシ多発園ではアプロード水和剤1,000倍を単用散布する。 注）開花後は葉害のおそれがあるので、必ず開花前に散布する。
2	5月下旬～ 6月上旬 (開花直前)	アザミウマ類 ハマキムシ類 落葉病 うどんこ病 灰色かび病 すす点病	400 (350)	オルトラン水和剤 ベルクト水和剤 展着剤	1,000倍 1,000倍 下記各展着剤使用基準による	45日 14日	2 3	100 g 100 g	・アザミウマ類の飛来時期となるので、散布時期が遅れないように注意する。 ・落葉病の感染期に入るので、散布ムラがないようにたっぷり散布する。 ・強風で枝葉が痛んだ場合は、灰色かび病を対象としてストロビードライフロアブル3,000倍を単用散布する。
3	6月中旬	アザミウマ類 ハマキムシ類 フジコナカイラムシ 落葉病	400 (350)	トクチオン乳剤 2-10式ボルドー 生石灰 硫酸銅	1,000倍 2-10式	75日 —	2 —	100 ml 1,000 g 200 g	・徒長枝はアザミウマ類の発生を助長するので、こまめに取り除くこと。 ・トクチオン乳剤に替えてトクチオン水和剤800倍でもよい。 ・落葉病の感染期なので、散布ムラがないようにたっぷり散布する。基準量を守る。 ・また、徒長枝等は防除効果の低下につながるため、適切に整理する。（新梢管理を行い通風採光をはかる）
4	6月下旬	ハマキムシ類 アザミウマ類 フジコナカイラムシ 落葉病	400 (350)	モスピラン水溶剤 2-10式ボルドー 生石灰 硫酸銅 展着剤	4,000倍 2-10式	7日 —	3 —	25 g 1,000 g 200 g	・落葉病の感染時期のため必ず散布する。 （梅雨期ではあるが、晴れ間を逃さず散布する。） ・6月下旬以降、フジコナカイラムシ防除適期となるので、多発園ではオリオン水和剤40の1,000倍液またはスプラサイド水和剤の1,500倍液を単用散布する。
5	7月上旬～ 7月中旬	アザミウマ類 フジコナカイラムシ ハマキムシ類 カメムシ類 カキアザミウマ フジコナカイラムシ 落葉病	400 (350)	オルトラン水和剤 2-10式ボルドー 生石灰 硫酸銅 展着剤	1,000倍 2-10式	45日 —	2 —	100 g 1,000 g 200 g	・カメムシ多発の場合はオルトラン水和剤にかえてロディー水和剤1,500倍とする。 ・落葉病の感染時期のためボルドー散布は必ず実施する。（雨天時の散布は葉が落ちたりする葉害を生じるおそれがあるので、できるだけ避ける） ・オルトラン水和剤の使用は2回まで、これ以降は使用不可
6	7月下旬	ハマキムシ類・アザミウマ類 フジコナカイラムシ 落葉病 すす点病 炭疽病	400 (350)	スタークル顆粒水溶剤 オーソサイド水和剤 展着剤	2,000倍 1,000倍 下記各展着剤使用基準による	前日 7日	3 5	50 g 100 g	・高温時の散布は、葉への葉害が懸念されるので、日中散布を避ける。展着剤の使用も注意する。 ・落葉病の感染時期のため必ず散布する。 ・すす点病感染期のため新梢管理を行い通風採光をはかる。
7	8月中旬～ 下旬	ハマキムシ類 フジコナカイラムシ幼虫 落葉病 すす点病 炭疽病	400 (350)	スプラサイド水和剤 ストライド顆粒水和剤	1,500倍 3,000倍	30日 14日	3 4	66 g 33 g	・これ以降の防除では展着剤は使用しないこと（果実への葉斑のおそれがあるため） ・ストライド顆粒水和剤のかわりにハットレッド水和剤2,000倍液でもよい。ただし、同一成分のため、散布回数には注意する。 ・スプラサイド水和剤の収穫前使用は30日前なので注意する。
8	9月上旬	ハマキムシ類 アザミウマ類 フジコナカイラムシ 落葉病・すす点病 炭疽病	400 (350)	テルスター水和剤 オーソサイド水和剤	2,000倍 1,000倍	14日 7日	2 5	50 g 100 g	・農薬使用は収穫の14日前までなので、注意する。 ・周辺に水稲がある場合は農薬が飛散しないよう十分に注意すること！ ・9月中旬以降にカメムシ対策として薬剤散布する場合はテルスターフロアブルの3,000倍とする。ただし総使用回数が2回のため、注意する。

(注1)

農薬の登録外使用は法律で禁止されています。上記以外の農薬使用についてはJA、関係機関にご相談ください。
 周囲作物への農薬飛散防止に努めましょう。（柿以外の農産物に農薬がかからないよう注意しましょう）
 周辺にタバコ・養蚕がある場合は、対象農家と事前に協議してください。
 農薬使用については、容器等にあるラベルの内容を確認・遵守し行うこと！
 散布作業はマスク、手袋等安全防除衣を着用するとともに、無風の涼しい日に実施しましょう。
 防除は生育や病虫害の発生予察に注意して適期におこないましょう。
 圃地環境（防風樹の整備・草刈りの徹底）をよくしましょう。

(注2)

薬剤混用の順序(通常) 水 → 展着剤 → 乳剤 → フロアブル剤 → 水和剤
 ※ボルドー液の場合はボルドー液調製後に展着剤→殺虫剤の順に混用する

(注3)

展着剤使用基準と上記「備考欄」に記載された農薬使用基準

展着剤・農薬	展着剤及び農薬名	使用倍率(倍)	100リットルあたり使用量	収穫前使用時期	総使用回数
展着剤	ネオエステリン	20,000～5,000倍	5 ml～20 ml	—	—
殺菌剤	ストロビードライフロアブル	3,000倍	33 g	14日	3回
	オンリーワンフロアブル	2,000倍	50 ml	14日	3回
	スパットサイド水和剤	2,000倍	50 g	14日	4回
殺虫剤	アプロード水和剤	1,000倍	100 g	開花期まで	2回
	テルスターフロアブル	3,000倍	33 ml	3日	2回
	トクチオン水和剤	800倍	125 g	75日	2回
	ロディー水和剤	1,500倍	66 g	7日	3回

(注4)

2-10式ボルドー液の調整について
 (ボルドー液100リットルの調整の場合)

手順1 小桶(熱で溶けない桶)を準備する。
 そこに水を少量入れ生石灰を少しずつ入れ、1kgの生石灰を溶かす。(発熱するので、消化するまで待つ) 消化したら薬液タンクに移し、水を加え20リットルの生石灰液とする。

手順2 別の大桶を準備し、200gの硫酸銅を水に溶かし水をさらに加え80リットルの硫酸銅液をつくる。

手順3 手順1で作った薬液タンクに入った生石灰液に手順2で作った硫酸銅液を攪拌しながら少しずつ加えて調合する。
 (注意) このとき必ず生石灰液に硫酸銅を入れること逆に入れられないよう注意する！（凝固するため）